『対策は実施するためのもの』
対策は、あくまでも問題点(阻害要因)を排除する手法であり、その実施を通じて問題の解決(目標の達成)をはかろうとするものである。従って、具体的な形で示さなければならない。

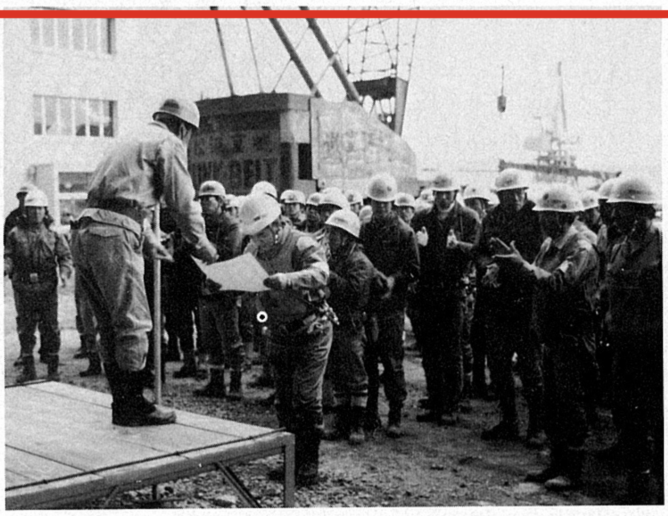
NPCニュース

昭和56年 2月 (第174号)
発行者 西日本プラント工業株式会社
総務部 東 宗利
福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号
電話代表 731—4321
印刷 今井印刷

松島建設所

日本最大の石炭専焼火力の第一歩として 2号ボイラに火入る(12月16日)

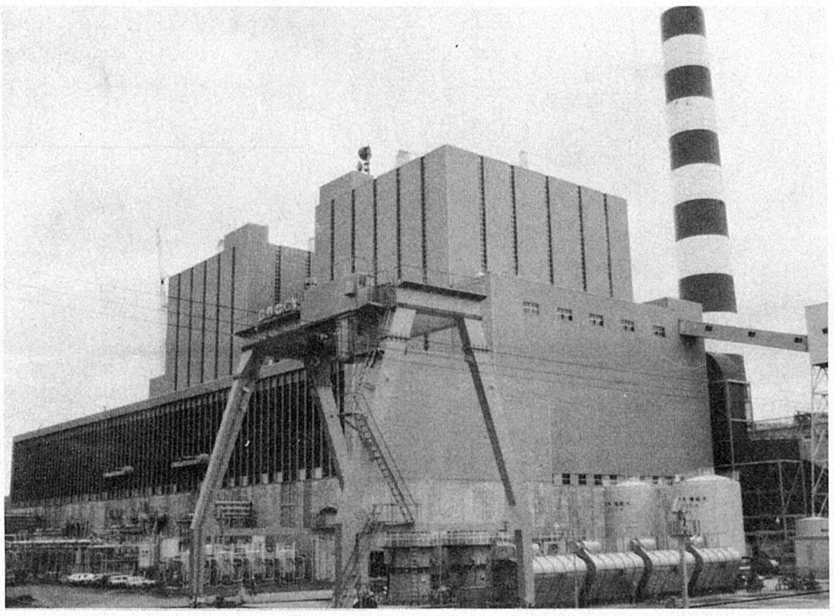
1号機は1月16日に運開



朝礼時に安全表彰を受ける速水松島建設所長

〔松島＝12月16日〕長崎県西彼杵郡大瀬戸町松島の電源開発株式会社松島火力発電所建設所では、石炭専焼の火力発電所を2基(各出力50万KW)建設中であるが、12月16日に2号ボイラの火入れ式が行われた。

オイルショックを機に石炭火力見直しが始まり、その第1号としての同発電所は、石炭専焼火力としてはわが国最大規模——2基での年間発電量は約60億KWHでその40%を九州電力株式会社、50%を中国電力株式会社、10%を四国電力株式会社に供給される——のものであり、また、わが国初の海外炭主力——約230万トンの年間使用量のうち約1割の20万トンは国内炭であるが残りの210万トンはオーストラリア、中国、南アフリカ連邦からの海外炭——の火力発電所でもある。



左は1月16日運開の1号、右は12月16日火入れした2号

当社は、同発電所建設工事においてボイラ(放射再熱式屋内型超臨界圧貫流ボイラ)本体据付工事を三菱重工業株式会社長崎造船所、循環水管配管工事を佐世保重工業株式会社、復水器廻り循環水管配管工事を丸誠重工業株式会社、復水器据付工事及び配管工事・給水ポンプ据付工事を東芝プラント建設株式会社 (なお、1号機補機配管・据付工事については日立プラント株式会社)、ガスタービン据付工事を石川島播磨重工業株式会社、除塵装置据付工事を宇部興産株式会社からそれぞれ受注し、54年1月に松島作業所を開設、54年4月に工事の本格化と共に松島建設所と改称し同発電所の建設工事に従事してきた。

1号ボイラの建設工程は、54年8月にセパレータ揚げ、翌55年1月に水圧、同年7月に火入れであり、2号ボイラは、55年1月にセパレータ揚げ、同年7月に水圧を行い今回の火入れという工程であった。

12月16日の火入れ式当日の安全祈願祭には、電源開発株式会社から木村理事、中村松島火力発電所長、三菱重工業株式会社から末永副社長、黒木取締役長崎造船所長、野田松島火力建設所長をはじめ関係各社から多数参列。当社からも石崎社長、久富建設工事部長、速水松島建設所長等が出席し、午前10時30分から3階の中央制御室で式は厳かに行われた。火入れの儀では、関係者多数が見守る中、木村理事が中央制御盤の点火ボタンを押すとモニターテレビ受像機がボイラ内の炎を赤く映し出し、無事2号ボイラに火が入った。

松島発電所では、大型のボイラ2缶の据付工事が輻輳していたが、この繁忙な時期を終え、速水所長は「電源の多角化が強く要請されている今日、石炭火力の見直しとしてわが国最大規模の石炭専焼火力発電所の建設に、全員一致協力し頑張り、無事火入れを終えたことは、これからの石炭新時代にとって大きな経験となった」と語った。

また、2号ボイラ据付建設工事において、着手以来50万時間無災害を継続し火入れを迎えたため、三菱重工業株式会社長崎造船所松島火力建設所の野田所長から表彰を受けた。

なお、1号機は1月16日に営業運転を開始し、2号機については3月中旬からメタル点検、各機器の総合試運転を行い、7月に営業運転を開始する予定となっている。

ナイジェリアに (事務職 1名単独派遣 技術職 4名は定検工事で)

サウジ・ヤンブは派遣員の一時帰国始まる

▲単独派遣の財部健祐さん

当社は、石川島プラント建設株式会社との海外派遣契約に基づき、ナイジェリア連邦共和国カドナ発電所へ昨年の12月18日に財部健祐さん、今年の1月15日に坂口稔さん、辻茂さん、中尾誠さん、1月22日に橋本和夫さんと協力業者の有限会社秀島工業従業員6名を派遣した。

昨年12月に出発した財部さんは、カドナ発電所にある石川島プラント建設株式会社の現地事務所において事務業務全搬を行うため10月31日まで現地に滞在するものである。この事務職の単独海外派遣は当社にとって初めてのことであり、将来当社が海外工事に本格的に進出する場合における大きな経験となるとして、その活躍が期待されている。また、今年1月2度に分かれて出発した坂口さん、辻さん、中尾さん、橋本さんの4名と㈲秀島工業の6名は、カドナ発電所1号・3号両ボイラ本体の定検工事のため同地に赴いたものでその滞在期間は3月31日までとなっている。

カドナ発電所は、ナイジェリア連邦共和国の首都ラゴスから北方約900Kmで、同国のほぼ中央に位置しており、気候はサバンナ気候であるが定検中の1月から3月は気温24℃〜27℃、湿度25%〜29%と乾期で最も過しやすい時期である。

一方、サウジアラビア共和国ヤンブ発電造水プラントの試運転要員として昨年7月に第1陣が出発して以来、総員28名に達しているが、一時帰国者の交代要員として12月4日に増田隆さん、渡辺行久さん、木畑郁児さん、宮平達信さんの4名を派遣し先発隊の遂次帰国が始まった。

一時帰国の第1陣として12月25日に吉田栄仁さん、上野保さん、大渕省吾さん、成富功さんの4名、第2陣として1月15日に宮本五十勅さん佐野正樹さん、中島稔さん、阿部健次さんの4名が帰国。1月8日及び1月30日の再出発の日まで休養した。

なお、一時帰国を終え現地に復帰した派遣員から

“ジェッダからヤンブまでの間の道は以前に2度しか通ってないのですが、なんとなく懐しく思え、ヤンブ発電所の煙突が遠くに見えはじめると皆里に帰ったような気持ちになりました。

中略

私達もまた残りの一年間NPCの社員として頑張るつもりです。”

という元気な便りが届きました。

◀左から中尾さん、橋本さん、坂口さん、辻さん